

東京山桜会 第9回校外教授



平成19年10月31日(水)、東京山桜会会員22名が集まり皇居東御苑の秋の散策と、荒川良雄氏(大手前中・高・4期)の講義を聞きながら『天ぶら天風』でのグルメ昼食を楽しみました。

江戸前天ぶら店として大手町に50年間営業する老舗『天ぶら天風』は、大手町界隈の200社にのぼる有名会社を顧客とする名店です。江戸前天ぶらは、ごま油で揚げますが油のグレードに12段階あり天風は極上のものを使用し、エビは長崎方面、穴子は佃で朝獲れた新鮮な東京湾のもので最高の江戸前天ぶらの伝統の味でした。味よし品よし姿よし、とにかく食べやすく、江戸前天ぶらの醍醐味に舌鼓みを打ちました。『僕は胃が弱いんだけどこれなら軽いしま来ようかな。』ととてももの静かな隣先輩がボツンとおっしゃっていたのが印象的でした。他の皆様も同様に感銘を受けておられました。となりの赤ちゃんもおねだりしてモグモグ食べていました。『何て、ひつこくないのだろう。』てんぶら本来の『食べやすさ』に感激しました。

皇居東御苑(皇居の東側に位置する)は大手門から入り、散策の始まりです。嘗ての江戸城の本丸、二の丸、三の丸跡の広大な面積(東京ドームの4.5倍)の御苑で、緑豊かな雑木林に小堀遠州作の日本庭園をはじめ四季の花咲く庭園、遺構もあり、都会の雑踏を忘れる穴場な所です。大手門から、三の丸尚蔵館を右に見て同心番所、百人番所、大番所、中雀門跡を通り、左に富士見櫓を遠く見て、右に本丸大芝生と大奥跡の芝生、松の大廊下跡を通り、富士見多聞と石室、天守台の所で大手町のビル群とまわりの雑木林を見わたし、ここで写真をとったり、広大な眺めを満喫しました。

ここは皇居と外のビル街が一体となった景色が見られる桃華楽堂(雅楽が行なわれる所)から大奥跡(今ドラマや映画やマンガになっ

ている話題の大奥跡)、そして天守台跡の前に立ち芝生をながめながら江戸時代のことを想像したりしました。

荒川先輩の説明によりますと、江戸時代の大奥は1年間に38回もイベントがあり、そのたびにきものが変わり費用は莫大なものであったそうです。はかりしれない費用と大奥の権力争いを想像してしまいました。台所といえば、江戸城大奥中奥の食事は台所役人が作り、御広敷膳所台所頭が献立に携わり御台所人が調理をし、御賄組頭が料理の指図、御賄組吟味役、御賄方など総勢70人くらいだったそうです。将軍のために毎食十人前の料理が用意され、毒味に二人前が消え、七人前が予備として次の間に置かれ、あとの一人前は御鈴口へ運ばれ御膳所で温め直しなどした後、御前に運ばれました。将軍の正室は「みだいさま」と呼ばれ、語源は御台所にあり、御台所は絶大な権力を持っていたとのことでした。

帰りも大手門から出て、天皇后ご成婚記念噴水前のレストランで休けいのお茶をしました。真っ赤なサルビアがたくさん咲いてとてもきれいでした。先輩の平山さんが小さな小さな種をひろって『こんなに小さいのよ。』と教えて下さいました。

一行は、荒川良雄先輩の江戸城の本丸御殿、中奥、大奥そして松の廊下(赤穂浪士47士の亡君のあだ討ちの忠臣蔵物)の事件、オランダ人のケンペルの謁見、中奥の大広間、白書院や黒書院(大名によって部屋がわけられ着席の場所も身分格式を示していた)など詳しい資料とご説明でとても勉強になり賢くなって家路につきました。とても楽しくたいへん有意義で充実した一日となり感謝しております。

(佐伯記)



当日は大手前中高前校長 亀井氏も参加。

平成20年 校外教授 御案内

明治神宮では秋に「菊花展」が催されます。広い正参道の両側にずらりと咲き誇る菊をゆっくりと歩きながら菊花展を楽しみ、さわやかな秋の一日を過ごしましょう。

授業について 講師：荒川 良雄(大中高4期)

昼食の後、講師より「明治神宮」の説明や、原宿界隈にまつわる興味あるお話を聞きます。午後4時30分には喫茶店に寄り休憩する予定。

第10回校外教授

日時 平成20年11月13日(木) 午前11時30分集合
5時頃解散

集合 「南国酒家 原宿店」

渋谷区神宮前6-35-3 コープオリンピア内
03-3400-0031 JR山手線 原宿駅 表参道口 徒歩5分
☆名物「かにの玉子入りふかのひれ」を楽しみましょう。

会費 10,000円(食事代・喫茶代実費)

連絡先：東京山桜会事務局 今西 TEL.03-3354-0581